

京都府学校薬剤師会 25周年記念誌 より

元京都市立永松小学校学校薬剤師、同志社中高等学校薬剤師 浦田耕作 先生

昭和37年～学校薬剤師としてご活躍された浦田先生の記念誌投稿内容より…

「・・・先輩の浜田先生がお亡くなりになり、遺言として佗しい年報を積み立てられた全部と相当なお金を添え、ご遺族が永松小学校に寄付をされ、学校は観察用水槽を作り、その徳をたたえた。…私も浜田先生に倣って、俸給を貯え環境衛生の改善に寄付し、…廃校に至るまで全く私せず寄付した。私立においても10年余は報酬を辞退し、無給であった。後に渋々いただいたが、学校薬剤師をやめる際検査器具を買って寄付をしてお破算にした。…長い学校薬剤師としての経験で、後の人達に伝えたいのは次のような点である。

- ① 学校薬剤師はなるべくその学校の卒業生が良い。愛校心があるし、自分の体験が役立つし、先生や関係職員との人間関係が極めて良い状態に保てる。特に私立の場合は、創学の精神を理解しているので都合が良い。
- ② 公立学校の場合は、卒業生でなくても学校の近くに長い間住んでいる薬剤師がよい。地域住民として、愛校心も生まれルシ、地域社会の環境や人間関係についても詳しい情報を持っているから便利である。学校側が相談したい問題が発生した場合に相談がしやすいし、登校を求めやすい。
- ③ 学校薬剤師は検察官的な立場ではなく弁護士の立場で、様々な問題の対策を考え実施すべきである。
- ④ 現在の検査方法を最新最良と思わず常に疑問を持ち、改善を心がけるべきである。
- ⑤ 広い視野で精密に観察し、柔軟性を持った発想で最善の対策を確立する。
- ⑥ 学校では学校薬剤師であると共に教育者であることを常に意識せよ。
- ⑦ 服装・態度を厳正に保て、学校内では喫煙をするな。
- ⑧ 共用する検査器具は大切に扱い、必要がなければ、手入れや補充をして、迅速に返納せよ。
- ⑨ 講習会や研修会の際に、指導にあたる役員や委員は、親切に温かい言葉で指導に当たれ。どんな場合も「こんなことが解らないのか」などと、思い上がった言葉を口に出すな。どのようなエキスパートも新人の時があったはずである。偉そうな態度は、はた目にも不愉快である。
- ⑩ 薬剤師の業わいに関して知ったる秘密を守る義務を認識し、むやみに検査結果などを漏らすな。

…和を大切にして、先人の苦勞を忘れず、新しい道を切り開き、ますます発展を遂げていただきたい。

学校薬剤師として私たちの大先輩としてひとつの方向性を示していただいたと思います。